

水林下遺跡現地公開資料

公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター 令和2年11月9日(月)～11月13日(金)

調査要項	
遺跡名	水林下遺跡(遺跡番号 461-078)
所在地	山形県飽海郡遊佐町吹浦字水林下
時代・種別	旧石器時代、奈良・平安時代(集落跡)
起因事業	一般国道7号遊佐象潟道路
調査依頼者	国土交通省酒田河川国道事務所
調査機関	公益財団法人山形県埋蔵文化財センター
現地調査	令和2年6月30日から11月27日まで
調査面積	2,180㎡
調査担当者	調査研究専門員 氏家信行(現場責任者) 主任調査研究員 渡辺和行
検出遺構	掘立柱建物跡 柱穴列 土坑 柱穴 ピット
出土遺物	石器 土師器 須恵器 陶磁器



図1 遺跡位置図(1/25,000)

1 調査の概要

水林下遺跡は山形県と秋田県との境に位置する遊佐町の女鹿地区に位置しています。また、遺跡は鳥海山の国定公園内にあたり、東に鳥海山、西には日本海が広がります。山海の幸が豊富に採れる場所であることから、当時この場所に住んでいた人々もそれを糧として生活していたと思われます。

今回の調査では、調査区を工程に沿って3つに分け、それぞれをA・B・C区としました。調査もこの順序に沿って行う予定でしたがA区終了後のB区において、調査前は判明していなかった旧石器時代の遺物が確認されました。そのため、C区の調査は西半分の遺構検出までで留めており、現在はB区の旧石器時代の調査を中心に行っています。

各調査区とも調査工程は同様で重機を使用し遺構が確認できる深さまで表土を除去した後、手作業で土を削り遺構を確認します。その後、遺構を掘り下げ、遺構の平面や土層断

面、遺物の出土状況等を図面や写真に記録していくという順序で行いました。

2 見つかった遺構と遺物

今回の調査で発見された主な遺構は、掘立柱建物跡・柱穴列・土坑・柱穴・ピットなどです。

A区ではピットが多数見つかりましたが、柱穴として建物を構成するものは確認できませんでした。但し、柱穴列は1列確認できました。柱穴の規模は掘り方が約80cmで深さが約1mあり、その中には柱が腐らず残っていました。この柱穴からは近世の磁器の破片が見つっています。従って、その頃のものと思われるが、柱の規模がその当時のものとしては大きいため、今後、柱の年代測定などを行い、時期を確定させていく予定です。

B区は上層と下層があり、下層から旧石器時代の石器が出土します。上層では掘立柱建物跡や、柱穴列、多くの柱穴やピットが見つ

かりました。掘立柱建物跡は2棟確認しています。柱穴列も同様に2列確認しています。これらを構成する柱穴は規模が20cm程度で、柱通りも不規則といえます。柱穴から遺物が出土していませんので時期の判断が難しいですが柱穴の規模が小さいことと、柱通りが不規則な点も考慮すると中世に属する可能性があります。但し、周辺で出土する遺物は平安時代のものがほとんどであり、新しい時代のものがあまり出土していません。そのため現状では平安時代から中世の間で建てられたものであるとしか言えません。今後、時期については検討していきたいと思えます。

遺物はA区・B区上層とも平安時代の土師器や須恵器が出土しています。しかし、いずれも小破片であり、器の形を成すものはありません。

B区の下層では旧石器時代の石器が出土しています。旧石器時代の調査は、生活の痕跡

が不明瞭であるため、石器の出土する範囲と深さを確認していく必要があります。

現状では、調査区の北側の中央から西側に石器が多く出土する範囲を確認しています。一番深いところで上層検出面の約20cm下から出土しています。石器の種類は剥片や石を割った時に出る小破片であるチップが出土しています。道具としての成品は今のところ確認されていません。

C区では柱穴や土坑が検出されています。

3 まとめ

調査により奈良・平安時代の遺構と遺物、また、旧石器が確認されました。特に旧石器の遺跡は県内約5200カ所ある遺跡の中で133カ所しか確認されていません。その上で、海岸沿いに立地する遺跡は稀であり、県内の旧石器時代を検討する上で重要な遺跡といえます。



写真1 A区完掘全景(北西から)



写真2 B区上層完掘全景(南東から)



写真3 C区西半検出全景(西から)



写真4 空撮写真(東から)



写真5 旧石器出土範囲の調査風景（北西から）



写真6 掘立柱建物跡2（西から）



写真7 柱穴列2（南東から）

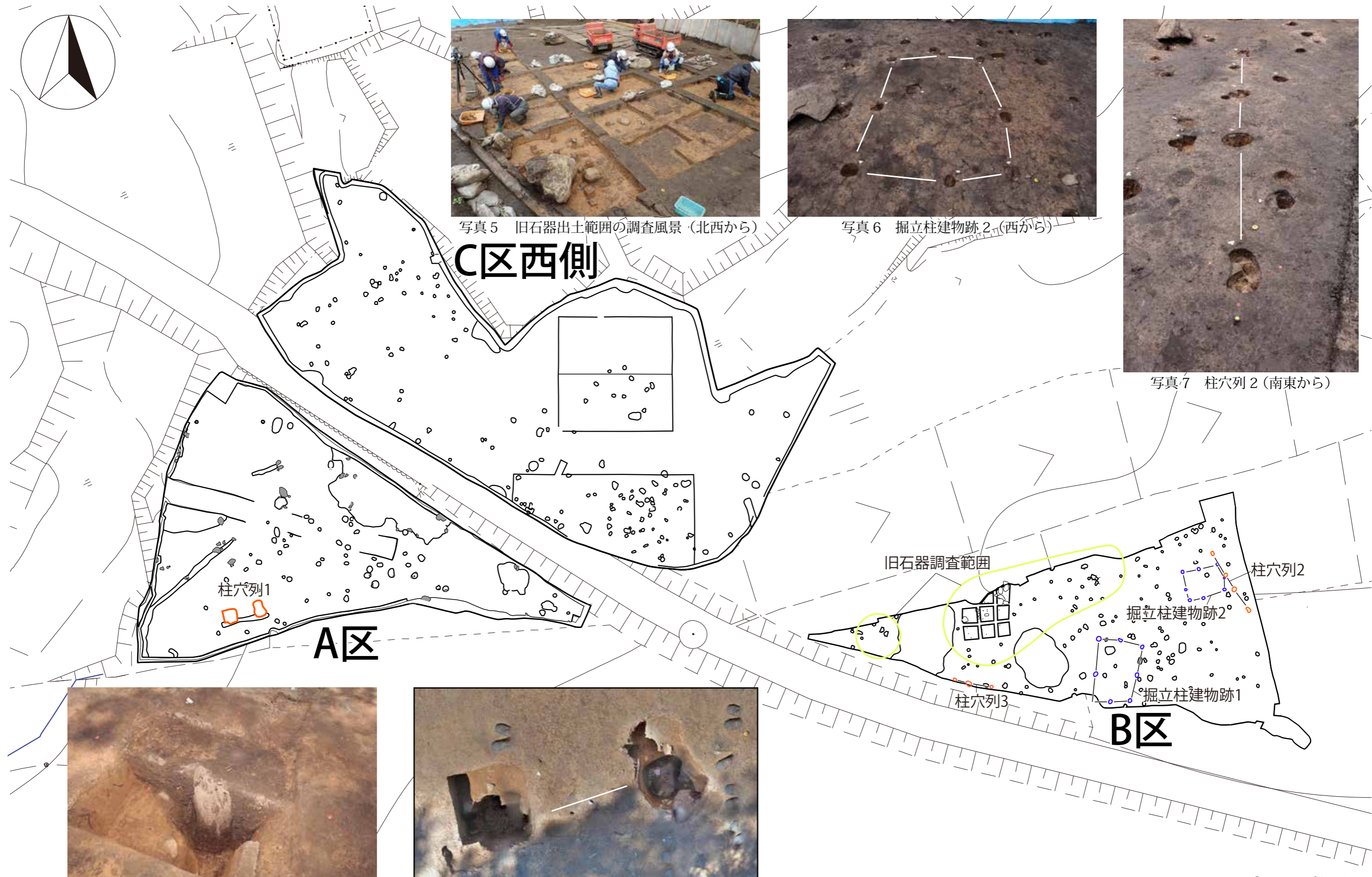


写真8 柱穴列1の西側柱穴断面状況（南西から）



写真9 柱穴列1完掘状況（オルソ画像）

S = 1/250

図2 水林下遺跡調査区概要図